伝道推進室報

伝道に燃える教団

日本基督教団 伝道推進室

今こそ、福音伝道の前進のために！

suisinsitsu News

2018.3.4

NO.10

contents 2〜4／「リフォユース500」報告　5／「夏期研修会」報告　6〜7／「山梨伝道キャラバン」報告　8／伝道推進室News発「伝道コラム」・お知らせ

Mikotoba

「更に傷つかないために」

塩谷　直也

青山学院大学 宗教部長

その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。

ヨハネによる福音書 第６章 1〜15 節

『教誨師』（堀川惠子著）は死刑囚と面談を続けた一僧侶の記録。死刑囚の更生を手助けしても結局は絞首刑になるとの現実に、翻弄される続ける僧侶の苦悩が描かれている。彼はやがてアルコール依存症となり、治療のために病院に通い、そのあとで死刑囚との面談を続けるという日常を強いられる。当初、仏の道を説く自分がアルコールで苦しんでいるなどとても言えなかった。しかしある時、思わず彼は自分のアルコール依存症を死刑囚に漏らす。「自分も実は病んでいる」と。

すると死刑囚の態度が変わる。「よく分かる」と共感し「お坊さん、頑張れ」と励ましてくれる死刑囚が現れた。僧侶は気付く。今までは自分が援助を与え、死刑囚はそれを受けるという一方向の関係で自分が

高みに立っていた。そのために本当の死刑囚の苦しみに寄り添えなかった。しかし自らの弱さに気付いた今、初めて隔ての壁が消えた、と。

私たちは人間を「与える人」と「受ける人」とに単純に分ける。しかしこの様な区分をしている限り私たちは本当の意味で「与える」ことも、「受ける」こともできない。何故ならそう思うことで相手との間に大きな段差、壁をつくってしまうからである。

説教もそうだろう。説教とは、「良き知らせ」を知る説教者が、知らない聴衆に一方的に与える作業だろうか。いや、それは説教者の深い傷・やぶれが、どうやって神の言葉によって修復されつつあるか、との回復途上の叙事詩ではないか。この叙事詩は（詩がそうであるように）聞き手を与えられて初めて命を得る。この痛みと回復の個人史が、イスラエル・初代教会・2000 年のキリスト教の救済史につながりつつ、聴衆と共有されて、傷ついた説教者も癒されているのだ。

イエスは群衆にパンと魚を分け与えたが、一方的にその食事を与えたのではない。イエスは与える側、群衆は受ける側、との単純な図式を聖書は示さない。イエスは１人の少年から、五つのパンと二匹の魚を提供され、それを祝福して増やして分け与える。イエスご自身が私たちに「受ける」ことで「与える」のだ、その交流で生かされるのだ、と教えてくださる。

ひたすら与える側に立ち続ける生活は「美談」ではあろうが、かなり危険である。一方的に与えるだけの人生は、心を閉ざすことに繋がる。神様は、私たちが援助者としての役割にこだわり続け、冷え切ったモノの受け渡し・情報の移動をこなし、さらに深く傷つくことを望んではおられないと思う。

聖書の啓示する神が、日本基督教団を、日本を、世界を、互いに与え、受け、心を開いてつながることができるよう、導いてくださいますように。

日本基督教団 宗教改革 500 周年記念

リフォユース500 中高生大会

2017 年 8 月 9 日～ 11 日
恵みシャレー軽井沢

《主題》
聖書の福音に立って共に進もう

《聖句》
Come and See! ▶ヨハネによる福音書 1 章 46 節

RY500 礼拝

塩谷直也先生

堀岡満喜子先生

「宗教改革 500 周年記念 教会中高生大会」報告

祈りと奉仕に支えられて

スタッフ／東和歌山教会牧師　**阿部倫太郎**

2017 年 8 月 9 日～ 11 日の 3 日間、軽井沢恵みシャレーを会場に宗教改革 500 周年記念教会中高生大会が開催された。主題は「聖書の福音に立って共に進もう」、主題聖句は「Come and See!（ヨハネ福音書 1 章 46 節）」。

今大会は中高生が受け身にならず、中高生が主役となるようにプログラムを作成した（そのため、主題講演はない）。プログラムの特徴として小グループによる活動が挙げられる。この大会は教団主催であり、教区や地区、有志グループ等の枠を超えて全国から中高生が集まる。小グループ（生活班）によって、中高生の不安を取り除き、居場所を確保すると共に、担当教師によってキリストが証しされることを期待した。

プログラムの目玉は最終日の「RY500 礼拝」。宗教改革によってもたらされた恵みの一つが礼拝改革であることをおぼえ、中高生が自ら学び、準備し、奉仕者として積極的に礼拝に参与するプログラムである。

大会を導く 2 名の素晴らしいメッセンジャーが与えられた。開会礼拝と「RY500 礼拝」のメッセージは塩谷直也先生（青山学院大学）、2 日目と 3 日目の朝礼拝のメッセージは堀岡満喜子先生（北陸学院中高）。中高生の現実に寄り添い、豊かに主イエス・キリストが示された。2 日目の夜にはスペシャルゲスト「YURIE」さんによる「賛美と証しの時間」。美しい歌声と共に力強く主が証しされた。また、キリスト者学生会（KGK）より 4 名のサポートメンバーが与えられた。賛美に関するプログラムの一切を引き受けて下さり、とても助けられた。

中高生は小グループによるミーティング（活動の確認、健康観察、祈祷会）をベースに 3 日間のプログラムに取り組んだ。最終日の「RY500 礼拝」を目指したプログラム「ワークショップ」と中高生の交流を目的とした「アクティビティ」がプログラムの柱であった。

多くの祈りと奉仕によって支えられた大会であったが、大会の恵みの全ては最終日「RY500 礼拝」に現れた。全ての中高生がそれぞれの賜物を活かしつつ礼拝する姿は美しく、教会の明るい未来を見た。参加した全ての者が「来て、見なさい」との御言葉を豊かに受けた大会であった。

中高生大会に参加して

高校１年／読谷教会　**神谷　周**

私は、８月９日から 11 日まで、軽井沢の恵みシャレーで「日本基督教団宗教改革 500 周年記念リフォユース中高生大会」に参加させていただきました。この大会では全国から 250 名くらいの中高生のクリスチャンが集まり、二泊三日のプログラムを通して、いろいろな体験をすることができました。

１日目は、夜中に自宅を出発し、沖縄から飛行機で東京に行きました。東京からバスに乗り軽井沢まで行きました。軽井沢に着いたら荷物を置いて開会礼拝に参加しました。礼拝後、夕食を食べ、ワークショップに参加しました。ワークショップでは色々なメニューがありましたが、私は動画作成を選択しました。ワークショップが終わり、部屋に戻って相部屋の人たちといろいろな話をして１日目が終わりました。１日目は、朝が早くて疲れましたが、新しい人と出会えて楽しかったです。

２日目は朝の礼拝を行い、ワークショップをしました。ワークショップでは、今大会のテーマである「来て、見なさい」を動画で表現しました。言葉を動画で表現するのは難しかったですが、楽しく作る事ができました。午後はアクティビティや自由時間があり、ゆっくりできました。夜はスペシャルゲストの YURIE さんの歌と証しを聞いたり、賛美をしたりしました。

３日目はリフォユース 500 礼拝がありました。この礼拝は、それぞれのワークショップでした事を組み合わせて礼拝を作りました。みんなで作った礼拝は、いつもの礼拝より楽しく、達成感がありました。

３日間のプログラムを通して、いろいろな人と関わり、いろいろな経験をして、とても成長できた３日間だと思います。

私を送り出してくれた教会と神様に感謝いたします。ありがとうございました。

出会いと実りの三日間

中学２年／河内長野教会　**坂本 七海**

河内長野教会の先生に「リフォユース 500」の申込書をもらったのは、7 月の事でした。長野県の軽井沢へ二泊三日の合宿。全国の教会から中高生が集まる。楽しそう、行ってみたいと思う反面、知らない人だらけなので、一人で大丈夫だろうか、という不安な気持ちもありました。しかし、軽井沢に着き、たくさんの人達と出会い一緒に過ごしていく中で、ずっと心の中にあった不安な気持ちが、楽しい！という気持ちに変わっていきました。

様々あるアクティビティの中で私が選んだのは「劇」と「登山」でした。

登山では、山が霧に覆われてしまい、残念ながら軽井沢の壮大な景色を見ることができませんでした。ですが、みんなで一緒に登り、写真を撮り、多くの人と関わる、という他に代えがたい良い経験を得る事が出来ました。

それから私は、「リフォユース 500」の特別礼拝をみんなで作るための企画として、選んだ劇では、聖書のお話を基にして自分達で台本を作り、配役を決め、演じました。すべてを皆で作りあげた、という達成感もあり、とても楽しい有意義な時間を過ごせました。

また、新たな友達もできました。その友達は違う県、違う地方に住んでいます。普段なら中々関わり合えない人たちと話し、繋がりを持てたのは、この「リフォユース 500」で得られた、貴重な経験の一つだと思います。そして、この大会に参加したことによって、自分はまだまだ色々な繋がりを持つことが出来るのだと、自信を持つ事が出来ました。このように、初めて出会った人達と時間を共にし、いろんな考え方に触れた事で、以前よりも広く物事を見られるようになり、自分自身が成長出来たと思います。

今回お声を掛けてくださった先生や、「リフォユース 500」でお世話になった先生方、本当にありがとうございました。この経験を活かして、もっと自分から様々な事に挑戦していこう、関わっていこう！と思います。

リフォユース500
ユースカンファレンス

「宗教改革 500 周年記念 青年大会」に向けて

主が幻を実現されるお方

青年大会実行委員／呉平安教会牧師　小林 克哉

2018 年春、宗教改革 500 周年記念事業として日本基督教団は青年大会（リフォユース 500　ユースカンファレンス）を行うことになりました。これまでと違うことは教団が加盟しているＮＣＣ系のみならず、いわゆる福音派（ＪＥＡ系）など諸教派の教会・団体に呼びかけ、諸教派が協力し合っての青年大会であることです。主が幻（ビジョン）を実現された恵みの出来事であると、心から感謝しています。

★

今から 21 年前に神学校を卒業し、わたしは広島県呉市に建つ呉平安教会に主任の伝道師として遣わされました。当時の呉平安教会は、数年前に教会学校が閉校しており、青年の教会員も求道者もいない状況でした。分区・教区の青年伝道の交わりもありませんでした。そのような中で、伝道献身者が起こされるようにとの祈り、また各教会では同世代のキリスト者との交わりを得られない青年たちの交わりの場や受洗への導きが与えられる場が与えられるようにとの祈りの内に、当時別府不老町教会の牧師であった岩田昌路先生らと西日本教会青年同盟を立ち上げ歩み出しました。呉平安教会には該当する青年がいないのですから、自分の教会のための働きとはならないと批判されるかもしれない歩みでした。

次第に神さまは呉平安教会にも青年（高校生含）を加えられ、春と夏に行われる献身修養会に参加するようになっていきました。そこで洗礼の決心を与えられた者、また伝道者となるため献身し神学校へ進む者が起こされました。青年たちにとって様々な賜物を持つ牧師たちとの出会い、各地に建てられている主の教会に集う青年たちとの交わりは、聖徒の交わりとしての教会を体感するものでした。そのような中でも、いつもわたしの心の中にあった思いは、本来なら教団がなすべき働きを、代わって有志団体としてなしているのではないだろうかという思いでした。

★

いわゆる教団紛争の中で、教団主催の青年大会が行われなくなり久しくなっていました。そのような中でも各教区や地区・分区の中には地道に青年伝道のための働きをしてきたところがありましたし、青年伝道のための有志団体（西日本教会青年同盟もその一つですが）がその働きを担っていました。教団規模での青年大会は、教団紛争以来夢物語のように思われていたかもしれません。しかし教団規模の青年大会、更には諸教派が協力しての青年大会という幻（ビジョン）を与えられ、その実現のために祈る者たちを、主はいろいろなところで起こしていてくださったと思います。

★

一つの機会が与えられました。プロテスタント日本伝道 150 年を記念した 2009 年です。全国教会青年同盟、福音主義教会連合関西部会、そして西日本教会青年同盟という有志団体が協力し、中高生青年大会を軽井沢の恵みシャレーにて行うことになりました。それまでにない画期的なことでした。それぞれに積み重ねてきた歴史があり、集会の持ち方や考え方がありますから、下手をすれば意見がぶつかり分裂しかねません。それぞれが賜物を出し合って幻（ビジョン）の実現へと歩み出すことが求められました。

当時のわたしたちには 100 人規模で行われる２泊３日の献身修養会は実現困難に思っていましたが、主はそれを実現してくださったのです。そして 2012 年、更に多くの有志団体が協力して、恵みシャレーを会場に 270 名の参加を得ての全国教会中高生青年大会が実現したのです。更に 2014 年、約半世紀ぶりとなる日本基督教団主催の青年大会（教会中高生青年大会）がＹＭＣＡ東山荘を会場に 370 名の参加を得て行われました。もし各教区や地区・分区、また有志団体での青年伝道の働きがなかったなら実現しなかったでしょう。それぞれの歩みが結集し、その歴史や伝統、賜物が生かされて実現したからです。

★

そして 2018 年春、教団主催での超教派での青年大会が実現しました。教派の違いが賜物として生かされ、互いを補い合うものとされるなら、どんなにすばらしいでしょうか。青年たちはそこで聖徒の交わりとしての教会を体感するに違いありません。そして将来、教派を超えて日本伝道のために祈りを合わせていく者へと成長していってくれることを願ってやみません。

教師継続教育・夏期研修会

教会における葬儀とは何か
～『歌いつつ聖徒らと共に』を土台として～

プログラム

8月15日（火）
12:30 **受付**　13:00 **開会礼拝** 説教：北 紀吉（松沢教会）
14:30 **講演1**「歌いつつ聖徒らと共に①」、16:30 **講演2**「歌いつつ聖徒らと共に②」 講師：平野克己（代田教会）
19:00 **「牧会夜話」**～牧会50年間の大失敗談～ 伊藤瑞男（隠退教師）　20:00 **夜の礼拝** 説教：栗原 清（武蔵豊岡教会）

8月16日（水）
9:30 **朝の礼拝** 説教：七條真明（高井戸教会）
10:30 **講演3**「神の創造された体」講師：大住雄一（東京神学大学学長）
13:00 **講演4**「パウロの体の理解」講師：朴 憲郁（東京神学大学教授）
14:30 **講演5**「葬儀での牧師の悩み」講師：神保 望（日本聖書神学校校長）
16:30 **演習(1)**「葬儀説教の神学を考える」講師：小泉 健（東京神学大学教授）
19:00 **懇談会**（教師委員会・参加者）　20:30 **夜の礼拝** 説教：福島純雄（筑波学園教会）

8月17日（木）
9:30 **朝の礼拝** 説教：古旗 誠（目白教会）
10:30 **講演6**「葬儀社からの辛口一言」講師：奥田幸平（キリスト教専門葬儀社 株式会社「輝」取締役会長）
11:30 **閉会礼拝** 説教：宮本義弘（沼津教会）

教師継続教育「第8回夏期研修会」報告

主の豊かな恵みと導きに感謝して

スタッフ／高井戸教会牧師　**七條 真明**

8月15日（火）～17日（木）、日本聖書神学校を会場として、2017年度教師継続教育夏期研修会が行われました。テーマは「教会における葬儀とは何か～『歌いつつ聖徒らと共に』を土台として～」。参加者は68名（うちスタッフ23名）。7名の講師の方々から豊かなご講演を伺い、語り合い、共に学びを深めました。この研修会も回を重ね、参加者の中に良き交わりが生まれていることを実感させられ、感謝でした。

この夏期研修会の始まりは、2006年にまで遡ります。日本伝道会という有志の団体において、教師検定規則第3条（6）による教師の交わりや研修を目的として始められた「C コースの会」がその母体です。その後、中断もありましたが、「夏期研修会」として再開され、准允から間もない教師の方々も対象に含めて行われるようになりました。やがて教団の伝道推進室が主催する形に引き継がれ、教師の継続教育のための教団の研修会となり、東京神学大学や日本聖書神学校を会場にして続けられてきました。研修会では、「説教」「教会」「葬儀」「牧会」「役員会形成」の5つのテーマを、5年サイクルで取り上げてきました。

来年度からは、教師委員会による研修会として続けられていくこととなります。これまでの主の豊かな恵みと導きに感謝しつつ、これからもこの研修会を通して、教師の方々のための良き継続教育が行われていきますように祈り願っています。

「教師継続教育研修会」、教師委員会としての取り組み

主のご委託に応えるために

教団教師委員会委員長／新生教会牧師　**菅原 力**

教団教師委員会は2018年度より「教師継続教育研修会」を主催することになりました。これは教団の教師になって10年までの人たちを対象とした継続教育研修です。

教師委員会ではこれまで教師の継続教育についての議論を重ねてきました。それは現在さまざまな形で行われている教師研修の場に加え、教団としての教師の継続教育が欠かせない、という認識に立っての議論でした。教師が主のご委託に応えて歩む中、困難の中にいる自分と繰り返し出会っていきます。そこで右往左往し、立ち往生することも少なくない。さらに、教師は根本に立ち帰って学ぶ必要を歩みの中で痛感していきます。

継続教育研修の場は、教師が共に主のみ前に立ち、共に御声に聞き、同労者と出会い、主の恵みを新たに受け、主の導きに目を向け、学び合い、分かち合っていく場です。そして、主の派遣に新たな思いで応えていく、それが継続教育の願うところです。

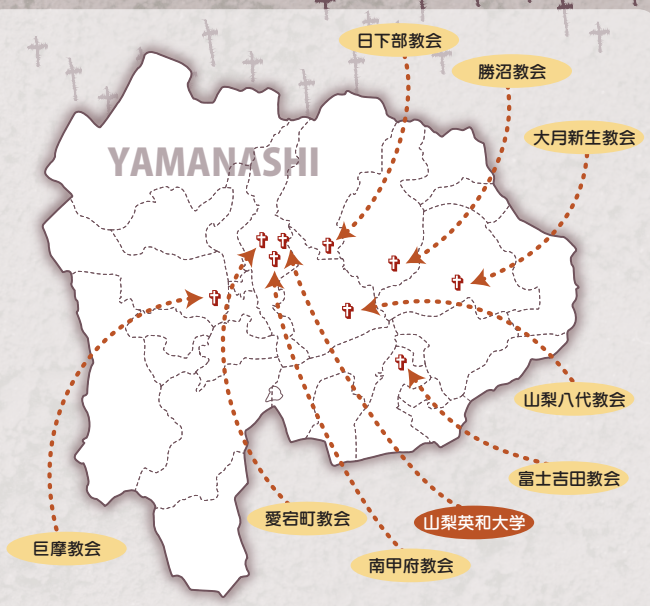
これまでの教団の歩みの中では「夏季教師講習会」、「牧会者共同研修会」といった継続教育の取り組みがなされてきました。また近年は伝道推進室による「夏期教師研修会」が実施されてきました。教師委員会としては、こうしたこれまでの教団の歩みを覚えつつ、「教師継続教育研修会」に取り組んでいきたいと考えています。

研修会の内容はもちろんのこと、経費のこと、参加しやすい環境づくり等々、今後検討していくべき事柄は多くありますが、教師一人一人の歩みに思いを寄せ、諸教会の祈りに支えられながら、継続的にこの会を担っていきたいと願っています。

伝道キャラバン報告

山梨

2017.10.28(土)～30(月)



伝道キャラバンを受け入れて感じた三つのこと

10 月 28 ～ 30 日にかけて、伝道推進室が実施している伝道キャラバンを山梨分区としてお迎えしました。推進室委員、担当幹事を初めとして、参加した神学生たちの伝道への熱い志を感じることができ、嬉しく思いました。一方、伝道キャラバンの催しそれ自体については、受け入れてみて様々なことを感じました。

以下、思いつくままに三点ほど記します。

まずはキャラバンという形式です。一過性の取り組みになると思うのですが、これはふさわしいでしょうか。定期的に伝道集会を行う教会もあると思います。それは継続的に取り組まれてこそ、地域に対し何らかのインパクトを持ちうるのではないでしょうか。伝道への熱意が感じられただけに、単発の取り組みではもったいないという印象が残りました。

今回の催しで良かった点に、神学生たちとの出会いを挙げた教会が複数ありました。神学生側にも実際の教会の現場に接し、励ましと決心を与えられたという感想を持った方がおられたようです。日本伝道の次世代を担う神学生の方々が地方の教会、特に困難な中で伝道する教会を経験してくださったことには大きな意味があると考えます。今後は是非、さらに多くの神学教師を企画に加えて取り組みを実施してくださることを要望します。伝道推進室よりもむしろ、神学校主体の取り組みになっても良いかも知れないと感じています。

企画の実施主体の所帯は適正でしょうか。現在は超多忙な教団議長が推進室長も兼ね、現場に出向いてきておられます。これはもう少し動き易い体制の方が良いかも知れません。このことにも関連して、分区内諸教会の中からは、事前準備の期間の短さと粗さを残念がる声が出されました。伝道推進室の担当者（委員・担当幹事）の方々も自らの教会がある多忙な中から繰り返し足を運んでくださったのですが、今後もっと当該地域の各個教会との事前準備と打ち合わせが細やかにできれば、実りは豊かになることでしょう。志が生かされるような形を与えられますようにお祈りいたします。

山梨分区総会議長／愛宕町教会牧師　宍戸　俊介

29 日主日礼拝・30 日訪問　説教者、キャラバンメンバー

巨摩教会	石橋　秀雄	（越谷教会／教団議長／伝道推進室長）
	黛　由香里	（東神大大学院 1 年／小金井緑町教会）
山梨八代教会	西海満希子	（東京聖書学校教授）
	遠藤　清美	（東神大大学院 2 年／吉祥寺教会）
南甲府教会	網中　彰子	（日本キリスト教協議会総幹事）
	宮本　裕子	（東神大大学院 2 年／大森めぐみ教会）
	菅原　哲	（東京神学大学 1 年／南三鷹教会）
勝沼教会	須田　拓	（東神大准教授、橋本教会）
	喩　任	（東神大 2 年、Yoohan Chinese 教会）
富士吉田教会	齋藤　篤	（深沢教会）
	平向　倫明	（東神大大学院 2 年／小金井西ノ台教会）
	堤　健	（東神大 3 年／横浜菊名教会）
大月新生教会	池谷　明高	（東神大 4 年／富士見町教会／教団正教師）
	岩澤　毅	（日本聖書神学校 4 年／八王子栄光教会）
愛宕町教会	石田真一郎	（東久留米教会）
	松本　秀史	（東神大 1 年／霊南坂教会）
山梨英和大学チャペルアワー	説教▶石橋　秀雄	

（敬称略、学年・所属は当時）

山梨伝道キャラバン・全体スケジュール

10 月 28 日(土)
12:30～、東京神学大学を出発。
15:00～、愛宕町教会（甲府市）に到着し、「山梨分区の教職と伝道推進室の懇談会」を開催。夜、宿舎で「感想の分かち合いと祈りの会」。

10 月 29 日(日)
6:30～、宿舎の外で早天祈祷会（奨励：菅原哲神学生）。その後、7 教会（巨摩、山梨八代、南甲府、勝沼、富士吉田、大月新生、愛宕町）に分かれて礼拝奉仕。
15:00～、日下部教会（山梨市）で「伝道協議会」を開催。
19:30～、愛宕町教会の夕礼拝に参加（説教：平向倫明神学生、神学生 9 名の聖歌隊による讃美）。夜、宿舎で「祈りの会」。

10 月 30 日(月)
6:30～、宿舎の外で早天祈祷会（奨励：岩澤毅神学生）。
10:20～、山梨英和大学チャペルアワーで、学生伝道礼拝（説教：石橋秀雄牧師）。その後、山梨英和大学（理事長、事務局長、宗教主任、宗教主任補佐）と伝道推進室との懇談会。「3 日間の感想分かち合いと祈りの会」の後、帰途。

◀巨摩教会
▼愛宕町教会

▼山梨英和大学チャペルアワー

山梨八代教会

「山梨伝道キャラバン」を受け入れて

山梨八代教会牧師　**田邉 優子**

10 月 29 日の主日礼拝に西海満希子先生が説教者として派遣され共に礼拝する時が与えられ、礼拝後には遠藤清美神学生の証しを聞き共に祈る時が与えられました。主がこの時を備え、恵みで満たしてくださったことに感謝いたします。

私たちの教会はこの４月に牧師を迎えることができましたが、その前の２年間を無牧の状態で過ごしました。主と分区諸教会、隠退教師や多くの兄弟姉妹の祈りに支えられ、幸いにも主日礼拝毎に説教者が与えられ御言葉に与り続けることができました。主日毎に礼拝する時、礼拝する場所、御言葉の奉仕者、共に礼拝する兄弟姉妹が与えられている恵みを思う時に、主の御心によってのみ教会が立つということを覚えずにはいられませんでした。

また、私たちの教会を覚えて祈り続けてくださった西海先生を伝道キャラバンの奉仕者として礼拝のために主がお遣わしくださったことを通して、改めて礼拝を中心とした歩みこそ私たちが祈り求める伝道の姿であると示されました。場所を異にしても、時を異にしても、主を礼拝する時、私たちは一つとされ、主の民として御言葉に養われ、御業に仕え、主の御救いを宣べ伝える者とされていることに感謝いたします。

山梨英和大学

秋の甲斐の国で、伝道キャラバン隊を受け入れて

山梨英和大学宗教主任　**高橋 一**

甲府盆地の秋も深まった 10 月末に、日本基督教団伝道推進室のプロジェクトの一環で、山梨県の教団諸教会と関係学校を「伝道キャラバン隊」が訪問する機会があった。石橋秀雄教団総会議長を始め、総勢 16 名が二泊三日の日程で来られたのである。最終日の 10 月 30 日（月）は、山梨県内で唯一のキリスト教教育機関である山梨英和学院の枝の一つである山梨英和大学がキャラバン隊を受け入れることになった。

キャラバン隊とは懐かしい響きを持った言葉である。戦後間もない時期には、多くのキリスト教学校の大学生たちが地方の教会を訪問するプログラムがあったようである。今回は反対（？）に教団の方から地方教会・学校に来られたというわけである。

山梨英和大学では、月曜日、火曜日、水曜日にチャペルアワーを各 25 分間設定している。今回は、このチャペルアワーで、石橋議長によって腹話術でメッセージを語っていただき、学生や教職員も楽しい礼拝を守ることができたことは感謝である。

その後は、キャラバン隊と理事長を始め大学関係者が昼食を共にした。日本の伝道を考える際に、全国の教会がキリスト教学校との連携をどう作っていくかは喫緊の課題である。その一歩となったかどうかわからないが、今後の展開に期待したいと思わされた一日であった。

伝道の喜びを経験する旅

キャラバンメンバー　**宮本 裕子**

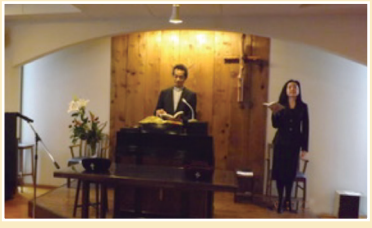
2017 年 10 月 28 ～ 30 日、牧師 6 名、神学生 10 名の合計 16 名は、山梨県にある 8 教会へ、伝道キャラバン隊として遣わされました。学部 1 年の菅原哲さんと私は、高津俊先生が牧会されている南甲府教会にて礼拝を守ることになりました。当日は台風直撃の最中、須田先生のお車で南甲府教会へ送っていただきました。須田先生の奥様は、南甲府教会に通っておられたこともあるとのことで、須田先生も懐かしいご様子でした。

南甲府教会は、かつては宝石会社だった建物を買い取ったそうですが、現在は、味わい深い手作りの木の十字架が講壇後ろに掲げられ、主がご臨在するにふさわしいステキな教会堂であります。

そして、日本キリスト教協議会総幹事の網中彰子先生の説教により、礼拝が始まりました。宗教改革 500 年の記念すべき年、ルターの宗教改革の話題にも触れながら、網中先生の軽妙な語り口で、主の福音が語られ、会堂の聴衆は魅了されました。

礼拝後、私は高松にいる 90 歳になる母が、先月洗礼を授かったことを中心に、「証し」を致しました。また、私の 4 年間の神学校生活が守られ、来年は派遣へと導いてくださっていることも、イエス様は生きて、今ここで働きたもうことを「証し」するものとなりました。

今年の伝道キャラバンでは、山梨の地で礼拝を守ることが許されましたが、日本中の全ての教会で、主の日が大切にされ、礼拝が守られていることに、改めて感動を覚えました。山梨に建てられた教会に連なる皆さま、親しくお交わりが持てましたこと、本当に感謝致します。



伝道推進室 News 発「伝道コラム」

詠み人 2

しりとり 伝道川柳

バッヂつけ 今日は東へ 明日は西

shiritori「ご委託場」

shiritori NEXT

"GO ACROSS." R500 〈LUKE 8:22〉

バッヂを付けて東奔西走というと議員のようですが、牧師の姿です。私は教団教育委員も拝命しており、精勤賞バッヂのデザインも担当の一つ。昨年度と今年度は宗教改革を意識して「向こう岸へ渡ろう」（ルカ8・22）からデザインしました。今年もこれ見よがしに胸や鞄に付けようとウキウキです。

東奔西走は牧会の条件ではありませんが、必要とあらば私も県を越え国境を越え飛び回ります。しかしそれ以上に注目すべきは、国内外から被災地を訪問くださる方々の顔ぶれの多彩なこと！聖書の舞台から見れば東端のような名取市ですが、東西南北から絶えず人と祈りとお便りが届きます。キリストにおいては一つ、という福音の結実であります。

さて、次回コラムニストは当然西日本ですね。私の高校時代の恩師、武田真治先生よろしく！

東北教区・名取教会　荒井 偉作

伝道推進室 News の新連載コラム「しりとり伝道川柳」では、全国の伝道推進室協力委員（各教区 1 名）の皆さまに、「伝道に関わって全く自由に」川柳と文章を寄せていただきます。川柳の最後の言葉を「尻とり」して、今号執筆者の指名により、次号の執筆者に繋ぎます。乞うご期待！

伝道トラクトをご活用ください

山北宣久牧師
New!
教会は誰のもの？ あなたのもの！
近藤勝彦牧師
死よりも確かなものはないのか
Christmas Message
わたしだけの誰か
網中彰子牧師
すべてのわざには時がある
姜尚中氏

教団ホームページ（伝道推進室のページ）で、内容をお読みになれます。

問い合わせ・お申し込みは　Tel 03-3202-0541　Fax 03-3207-3918　E-mail dendo-s@uccj.org

教会名等の刷込 なし…1 枚 10 円、刷込 あり…1 枚 12 円
（山北宣久トラクトは刷込の有無にかかわらず 1 枚 15 円）
教団ホームページから購入申込書をダウンロードできます。

伝道推進室 維持献金のお願い

伝道推進室の働きは皆さまの祈りと献金によって支えられています。誌面でご紹介した伝道キャラバンや伝道集会を行うための講師派遣などご相談に応じます。
一人でも多くの方が主と出会う機会が与えられますよう、祈りお捧げください。

《郵便振替口座》
00150-4-338628 日本基督教団伝道推進室

《伝道推進室基本方針》
日本基督教団は、聖なる公同の教会に連なる福音主義合同教会である。本教団は、簡易信条と公会主義の伝統を継承しつつ、十字架と復活の主のご委託に応えて、日本伝道の幻に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、『日本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって、さらには将来の『伝道局』構想を視野に入れつつ、教団全体における伝道の実践と研究に取り組み、教団内諸教会、諸団体における伝道の推進に仕えるために活動する。

編集後記

★レントからイースターへの歩みに、福音の恵みが満ち溢れますよう、お祈り致します。
★室報第 10 号をお送り致します。宗教改革 500 周年中高生大会、山梨伝道キャラバン、教師継続教育と、福音伝道に仕える日本基督教団の一つの交わりに与えられた豊かな恵みが広く分ちあわれますよう祈っております。わたしたちのための十字架の死のなかから立ち上がられた主が、生きて働いておられる豊かな恵みを、共に讃えましょう。
（広報実務委員会）

●発行者／石橋秀雄　●発行日／ 2018 年 3 月 4 日　伝道推進室報 No.10
●発行所／日本基督教団 伝道推進室
《日本基督教団事務局内》
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31 〈郵便振替 00150-4-338628〉
TEL 03-3202-0541　FAX 03-3207-3918　URL http://uccj.org